

様式第3号（第4条関係）

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

令和7年度 第2回丹波篠山市社会教育委員・公民館運営審議会会議

2 開催日時

令和7年10月30日（木曜日）午後7時30分から午後9時20分まで

*傍聴の受付時間（午後7時15分から午後7時25分まで）

3 開催場所

丹波篠山市立四季の森生涯学習センター 西館2階 研修室（大）

4 会議に出席した者の氏名

- | | | | | |
|----------|-------|-------|-------|--------|
| (1) 委員 | 安井 健二 | 足立 弘美 | 山下 好子 | 谷掛 昭二 |
| | 村上 佳子 | 山本 歩美 | 瀬戸 大喜 | 橋元 工 |
| (2) 執行機関 | 辻川 貴志 | 藤原 裕大 | 笛木 颯仁 | 尾崎 帆乃花 |
| | 竹見 朋子 | 徳田 実穂 | 岡花 宏明 | |

5 傍聴人の数

0人

6 議題及び会議の公開・非公開の別

- | | |
|----------------------------|----|
| (1) 令和7年度社会教育関係事業の進捗状況について | 公開 |
| (2) 令和8年度社会教育関係事業計画について | 公開 |
| (3) その他 | 公開 |

7 非公開の理由

—

8 審議の概要

- (1) 開会 議長
- (2) 報告事項 (1) 令和7年度社会教育関係事業の進捗について

—事務局より説明—

委員：

前回の会議で丹波篠山市展の来場者が少ないという現状を聞いたが、今回来場者を増やすためにどのような内容にしたのか。

事務局：

来場者を増やす取り組みはこれからであり会期前にInstagramの発信をする。また在住外国人の方へのPRも地域振興課から企業に周知し、優しい日本語で作ったチラシを配布する等のPR方法を行っている。

委員：

先日、美術館に行ったら作品にまつわるクイズやスタンプラリーがあった。参加型で作品を見ながら子どもさんも楽しんでおられた。丹波篠山市展の展示作品にまつわるクイズやワークショップはどうか。1人の作家の展示会ではトークショーがある場合がある。丹波篠山市展も作品作成に至った経緯など作家の思いを知ることができたら楽しいと思うのでインタビューするとかインスタに掲載してほしい。

議長：

出展の状況はどうか。

事務局：

現在受け付け分は約50点である。来場者の投票制度もある。市民が出展しやすい丹波篠山市展をとらうご意見を前回の会議でいただいた。気軽に出展できる内容をめざしたくインスタグラムでも発信していきたい。委員のみなさまからのご意見もいただきたい。

委員：

丹波篠山市展は芸術の方向なのか市民、素人の方向なのか。今後どちらを向いて行くのか。丹波篠山市展が始まった当初の想いもあるが、今後は変化するという設定なのか。

事務局：

第20回は208点、来場者は1,000人程度である。今までのコンセプトは市民が芸術にふれていただきたいという趣旨でやっていた。これまでのコンセプトで今後も行くのか思案中だが、来場者が増えない状況で今後は展示物の紹介をインスタグラムで発信すること、また市民の方々に作品を出展いただき、大勢の方が来場されるという方向にしてはどうかと思っている。

議長：

事務局も方向性を悩んでいる。一回目の会議で令和7年度の市展に委員が行き今後の方向性を決めていこうとなったと認識しているが、委員は個々に行くのか。

事務局：

市展の開催期間中のご都合の良い時にお越しいただきたい。

副議長：

今回資料のような全事業の執行状況や次年度の計画資料ではなく、事業を絞って重点的事业（例えばABCマラソンや丹波篠山市展等）について事務事業評価等の資料で協議したら良いと思う。

事務局：

検討する。

副議長：

資料は、今ある評価等資料を転用できれば手間も省けると思うし、会議開催時期も検討する必要があると思う。

事務局：

検討する。

事務局：

資料は篠山の教育の資料を使うのはどうか。

委員：

現在、事務事業評価はしておらず作成指示もないのではないか。

委員：

篠山の教育では情報量が少ないと思う。

事務局：

篠山の教育と予算を組み合わせたら協議を深められるのではないか。

議長：

私たち委員の意見が予算編成時に反映されるのか。反映されるならばモチベーションも上がる。会議開催時期を予算編成前にすれば予算編成に反映可能でないか。

事務局：

前年度の篠山の教育点検評価終了後に会議を開催し、委員のご意見を次年度に予算反映させるのは時期的に難しいため次々年度の計画、予算に反映するという方法はある。来年度は、篠山の教育点検評価終了後に会議を開催し、令和7年度篠山の教育点検評価でご協議いただき、令和9年度の事業計画や予算にご意見を盛り込む形となる。

(3) 協議事項(1) 令和8年度社会教育関係事業計画について

－事務局より説明－

事務局：

次年度会議の時期を考えて開催する。また、丹波篠山市展の見直しについては指示が出ており今後の内容については流動的で公民館事務所管の文化祭との連携も考えている。

委員：

地域学校協働活動推進員設置についてだが、資料のとおり、地域学校協働活動推進員は学校と地域が協働して行う活動を推進する人材であり、地域と学校のつなぎ役として地域住民、団体、企業などの多様な主体と学校を結びつけ、地域学校協働活動を組織的・継続的に進める中核的人材である。(文部科学省「地域学校協働活動の推進に関する手引き」とある。たとえば校外学習の引率や水泳指導や地域探訪等子どもたちのためになるつながりとなるのか。学校と地域の間に入って、学校から多岐にわたる希望の活動内容について推進員にお伝えすることになるが負担に思い困られないか。事業が直前にキャンセルになるのも困る。形骸化することなく、推進員が困らないよう人材バンクの充実、推進員と市とのつながりが必要でないか。

事務局：

丹波市の現在の実施内容は、学校現場から出た意見を学校長がお声かけしたコーディネーターに連絡するとのことである。仕事内容は、学校運営協議会の仕事をご担当いただいているようである。丹波篠山市は推進員に年3回程度研修を実施予定で企業紹介やスポーツ関連等に関する課が丹波篠山市にあるため情報提供できると思う。

副議長：

多紀地区は、コミュニティスクールが活発である。現在、中心になって活躍して下さっている方がおられる。その方が今回の地域学校協働活動推進員にあたるのではないか。これまでボランティアでされていた方の活動に今回予算化されたことはしっくりくるし一歩進んだと思う。学校側は予算額が年間3万円で、どこまで推進員に頼ってよいか懸念されているのではないか。

委員：

現在の多紀地区の活発なコミュニティスクール活動は大変ありがたいと思っている。推進員が困られないよう人材バンクの充実、推進員と市とのつながりが必要と思う。

議長：

公民館説明で課題として上げた受講生の固定化について、新規開拓へのPR方法等、何かご意見はあるか。

委員：

SNS や人とのつながりなど、主催者からの発信だけでなく、体験者からの口コミ情報が効果があると思う。その他、事業内容の変更や長年受講されている方への支援を行い、その方が指導者になって活動していただくなど。

事務局：

公民館と言えば地区の公民館が思い浮かぶ。居場所としての機能（ふらっと行って人と話す。居場所づくり）から人とのかかわりがある。

委員：

今ある事業をスクラップせず新たな事業をすとなると職員の労力が多く、なかなか難しいのではないか。

事務局：

今ある事業の内容変更も考えながら進めていきたい。

副議長：

30人、40人集まる講座を若い人に任せるなど講師の世代交代や入れ替えを行い新しい人材を入れ、内容を少し変えてみてはどうか。

委員：

クッキングなどの講座に参加していたが、匠コースもあって良かった。飽きるというものではないが少し内容を変更しニーズに合う講座にすると良いと思う。

委員：

古文書講座や高齢者大学、クッキング（保護者と子ども）などの講座があるが、高齢者と子どもとの世代向けの講座が無いように思う。苔玉作りやガーデニング、ゴルフなど若い世代や趣味につながるものなどを取り入れたらどうか。

委員：

働いている世代は忙しく参加しにくかったが退職して少し心に余裕ができ、広報掲載の講座等が目に入るようになった。受講生を増やすためにはやはり口コミが大事と思う。その他、ポスター掲示やインスタグラムで発信など、あの手この手でいろいろやってみるのが良いのではないか。

(4) その他

—事務局より事務連絡—

(5) 閉会 副議長